

平成20年度 南丹市事業評価表 (平成19年度 実施事業)

事業CD. 8385 事業名: 文化祭事業
 細事業名: _____

政策体系上の位置付け (参考) 平成20年度～ 総合振興計画実施事業

政 策: 第1章 生涯充実して暮らせる都市を創る
 基本施策: 3 生涯にわたって学び、活かす機会をつくる
 主な施策: (5) 文化芸術の振興

所管部署名
 部局名: 教育委員会
 課 名: 社会教育課

科目CD. 1100502 作成日 平成20年10月21日

事業分類: B:ソフト事業
 新規事業 時限事業 (平成 年度迄)

実施根拠 (法令、条例等)
社会教育法

事業運営方法 直営 一部委託 全部委託 補助等

委託先 民間 三セク NPO 学校 自治会・地縁団体
 その他 (文化協会)

事業概要

◆ 課題・目的 (どのような課題を解決するために実施した事業なのか)
 発表者、来館者、運営者が一体となって文化活動の振興を図り、交流の輪を広げる。

◆ 活動内容 (具体的にどのような活動を行ったのか)
 展示団体や発表団体への働きかけを行い参加を促した。また市内幼小中学校に参加した。

◆ 対 象 (この事業を実施するにあたり、ターゲットとした者(物)は何か)
 発表者及び文化祭来場者

◆ 結 果 (この事業を実施したことにより、どのような効果または結果が得られたのか)
 発表者・来館者・運営者等の交流が図れた。
 文化活動の振興が図れた。

指 標		単 位	18実績	19実績	20予算	21計画
活 動 指 標	① 展示発表団体の数			精 査 途 中		
	② 幼小中学校の参加					
	③					
	④					
	⑤					
対 象 指 標	① 参加者			精 査 途 中		
	②					
	③					
成 果 指 標	① 発表内容			精 査 途 中		
	② 来館者数					
	③					

市民や議会等からの要望・意見 (要望や意見の内容とその内容を確認した手段は何か)
 事業内容の充実・事業運営者の達成感反省会議

近隣市町村や民間企業での同種事業の実施状況
 同事業を実施

決算(予算)額	(千円)	1,579	1,819	1,414	1,374	
財 源 内 訳	使用料・手数料等	(千円)	0	0	0	0
	国・府支出金	(千円)	0	0	0	0
	地方債	(千円)	0	0	0	0
	一般財源	(千円)	1,579	1,819	1,414	1,374
職員従事時間	(人)		2.15			
人件費 ※	(千円)		12,596			
トータルコスト ※	(千円)		14,415			

※人件費は、職員の給与・諸手当・共済などから、一定の基準に基づき算定したおおよその額です。
 ※人件費およびトータルコストは、あくまでも参考値です。

【公共性の評価】

- (1) 行政の守備範囲 (民間や市以外の機関等が実施すべき事業ではなかったか)
- 法令等により定められた事業 市が実施すべき事業 行政内部の事業
- 民間等での実施は見込めない 民間等での実施も可能

説明: 社会教育法で開催が定められている

- (2) 事業選定の妥当性 (事業の目的や意図が政策や施策の目指す方向にあっているか)
- 施策等の実現に向けた事業 施策等の方向とマッチしていない

説明: 文化活動の振興

- (3) 対象の妥当性 (事業の本質から考えて的を得た対象を定めているか)
- 本質に沿った対象である 的を得た対象となっていない

説明: 実施内容の充実を考えた

【有効性の評価】

- (4) 課題解決への有効度 (目的の達成や、課題解決のために有効的な事業か)
- かなり有効的 当初の予想どおり 予想しても有効的でなかった

説明: 事業運営の協力体制

- (5) 施策実現に対する有効度 (総合計画の施策実現に対して有効的な事業か)
- かなり有効的 当初の予想どおり 想定よりも有効的でなかった

説明: 市民の学習発表の機会提供

- (6) 成果向上の余地 (施策実現に向け更なる成果向上の余地はあるか)
- 大きい 小さい 無い

説明: 旧町の文化交流

- (7) 類似事業との統合・再編・連携の余地 (他の類似事業と統合や連携ができないか)
- 統合や連携等の検討可能 統合や連携はできない 類似事業がない

説明: 市域が広大なため移動手段が必要

新たに生じた課題・解決できなかった課題等

実施団体の育成

改革案 (いつ、どのような改革を、どのような手段で行うのか)

サークル活動の充実

【緊急性の評価】

- (8) 課題解決への緊急度 (なぜ早期に実施しなければならなかったか)
- 法令等により期限がある 他事業よりも効果が大い 早期の取り組みが必要
- 他事業よりも優先度が高い 市民の生命・財産を守るため 緊急性は低い

説明: 継続性が必要

【効率性の評価】

- (9) コスト削減の余地 (事業内容、職員労力、仕事の進め方などから)
- 削減の余地あり 削減の余地なし

説明: 実施内容の検討

- (10) 受益者負担の適正 (社会状況等から受益者の負担は適正か)
- 正当な受益者負担 見直す必要あり 負担を強いる事業ではない

説明: コストに見合う負担を検討

【協働性の評価】

- (11) 市民との協働による事業実施 (協働による実施を検討したか)
- 協働事業には不向き 協働では実施していない 協働で行ったが主体は行政
- 協働で行ったが住民主体は一部 市民等が主体となって実施

説明: 実施団体の育成が必要

- (12) 協働事業としての推進の余地 (今後、協働による推進できる余地はないか)
- 余地あり 余地なし

説明:

所 属 長 総 括 評 価

本年 (平成20年) 度から、総合開会式を実施。平成22年度には南丹市文化協会設立の予定。文化は垣根を越えて人が集まれる。国民文化祭開催を機に、市の文化活動の底辺を広げると共に、情報を交換できる組織化をめざす。

※事務局使用欄

一次評価	継続 (現状維持)	市が行なう役割を明確にする必要がある。誰のために実施するのか、税金を使うのかを考えてほしい。
二次評価	継続 (現状維持)	文化サークルや団体の発表と交流の場として実施されるもので、南丹市として文化活動の促進と振興を図るため必要であり、行政指導から自主運営による運営形態への移行としても必要